

研究機関：広島大学

研究課題名	PD-1 阻害薬の耐性化機構における MUC1 の役割
研究責任者名	大学院医系科学研究科 分子内科学 教授 服部 登
研究期間	2019年6月20日(倫理委員会承認後)～2024年3月31日
対象者	

2015年4月から2023年3月の間に、広島大学病院呼吸器内科、呼吸器外科、がん化学療法科を受診した肺癌患者のうち免疫チェックポイント阻害薬による治療を受けた患者。

意義・目的

免疫チェックポイント阻害薬（PD-1 阻害薬など）は肺癌患者に対する最先端の治療薬として注目を浴びています。一部の患者さんには劇的な効果を発揮する一方で、多くの患者さんではあまり効果がないこともわかっています。この研究はその耐性の機序を明らかにして、より多くの患者さんに治療が効くような手段を探索することが目的です。

方法

本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。

カルテから使用する内容は年齢、性別、身長、体重、BMI、主病名、合併症、初診日、治療内容、予後などです（個人を特定可能な情報は解析に用いません）。また、過去に採取した組織検体を利用して、追加の免疫染色を行います。

共同研究機関

ありません。

試料・情報の管理責任者

大学院医系科学研究科 分子内科学 教授 服部 登

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形

